

3 海外調査報告

〈日程〉

月 日	視察地
3月3日(月)	沖縄ーマカオ移動
3月4日(火)	ベネチアン・マカオ
3月5日(水)	マカオ・ツーリズム・カジノキャリアセンター クラウン・マカオ マカオ大学
3月6日(木)	マカオー沖縄移動

〈参加者〉

月 日	氏名	所属
検討委員	山内 彰	(社)沖縄県青少年育成県民会議 会長
	元山 和仁	沖縄女子短期大学総合ビジネス学科 教授
事務局	當間 保智	沖縄県観光商工部観光企画課 主幹
	渡久地 政尚	沖縄県観光商工部観光企画課 主査
	盛山 美紀子	沖縄県観光商工部交流推進課
コンサルタント	牧原 修一	(株)国建地域計画部
	松田 めぐみ	〃

(1) マカオにおけるカジノの概要について

1) マカオにおけるカジノの歴史等について

聞取対象者: 澳門大学 馮家超 博士



(ア) マカオにおけるカジノの概要

ア) マカオにおけるカジノの歴史

- ① マカオのカジノは1847年にポルトガル政府により認められ、160年余の歴史があるが、当初はカジノ場の管理や規制はなかった。
- ② 1930年代に政府がカジノ経営権の寡占化政策を導入し、3団体・企業にカジノを認めたが、1961年から2002年までは、スタンリー・ホーがカジノ経営権を独占した。
- ③ マカオ返還前の1997年から1999年にかけて、マフィアの抗争が発生し、治安悪化したために警察の取締りが強化された。治安悪化の背景は、当時50のカジノオペレータによるVIPルーム間の競争激化である。
- ④ マカオ政府は、独占企業の弊害を認め、2001年にカジノ経営権を外資にも開放した。



多くのカジノが立地するマカオ市内

両島は架橋(3本)で結ばれている

コタイ地区(埋立地)、新たなカジノ関連プロジェクトが進められている

イ) マカオにおけるカジノの現状

- ① カジノ収益の80%は、大口賭博者がプレイするVIPルームからもたらされる。
- ② 外資への開放後は、VIPルーム客が減少し、小口賭博の娯楽客が増加している。
- ③ 小口客を引き付ける手法として、ラスベガススタイルが導入され、ベ

ネチアン・マカオのようにカジノ以外に食事、ショー、ショッピングなどが楽しめる統合リゾート型（Integrated Resort＝IR）の施設が整備されるようになった。IRのコンセプトは、“Sustainable（持続可能）”“Healthy（健康的）”で、小口客にもインセンティブを与えている。



開発ラッシュとなっているコタイ地区（ベネチアン・マカオ周辺）。

- ④ コタイ地区には現在、20ほどのプロジェクトがあるが、ほとんどがIRをコンセプトにしている。今後、コタイ地区では2,000から3,000のテーブルと計20,000室のホテルが整備される計画である。
- ⑤ 2007年のマカオへの観光入域客は2,700万人、平均滞在日数は1.63泊で、前年・前々年の1.1泊から増加し、観光客のホテル滞在が長期化しつつある。2008年の入域観光客は、3,000万人が見込まれる。
- ⑥ 2007年マカオのカジノ収益は、中国大陸の中間層の増大に支えられ、対前年比47%増の104億米ドルで、2008年は20%増が見込まれている。
- ⑦ カジノは規制産業のため、供給が需要を呼び込む“Supply-Demand Effect（対需要供給喚起効果）”があり、数々の新プロジェクトの進行で、今後5年間は成長が見込まれ、その後は安定化に向かうと思われる。
- ⑧ カジノ全体の控除率（House edge advantage）は20%程度だが、収益の高いVIPルーム（現在200ルームある）は2.8%～3.0%となっている。
- ⑨ カジノの税率は39%で、2007年の政府のカジノ直接税収入は40億米ドルとなっている。

表1 マカオにおけるカジノ設置数の推移

事業者 \ 年	2002	2003	2004	2005	2006	2007
SJM	11	11	13	15	17	18
Galaxy	-	-	1	1	5	5
Venetian	-	-	1	1	1	2
Wynn	-	-	-	-	1	1
Melco PBL	-	-	-	-	-	1
MGM	-	-	-	-	-	1
合計	11	11	15	17	24	28

表 2 マカオにおけるゲーム機器設置数の推移

種類 \ 年	2002	2003	2004	2005	2006	2007
テーブル	339	424	1,092	1,388	2,762	4,375
スロットマシン	808	814	2,254	3,421	6,546	13,267
合計	1,147	1,238	3,346	4,809	9,308	17,642

表 3 マカオにおけるゲーミング粗収益の推移

年	入域観光客数 (万人)	ゲーミング粗収益 (100 万パタカ)	左のうち VIP バカラ(%)	対前年伸び率 (VIP バカラ)	粗収益円換算 (億円)
2001	1,028	19,541	12,755 (65.3%)		2,654
2002	1,153	23,496	16,340 (73.7%)	20.2% (28.1%)	3,191
2003	1,189	30,315	22,178 (77.4%)	29.0% (35.7%)	4,118
2004	1,667	43,511	29,783 (72.0%)	43.5% (34.3%)	5,910
2005	1,871	47,134	28,864 (62.7%)	8.3% (-3.1%)	6,402
2006	2,200	57,521	36,783 (65.0%)	22.0% (27.4%)	7,813
2007	2,700	83,847	55,762 (67.2%)	45.8% (51.7%)	11,389

注意: 1HK\$=1.03MOP、1HK\$=¥13.99、1MOP(パタカ)≒¥13.583(2008年1月22日現在)

資料: 出典: マカオ特別行政区政府、マカオ博彩監察協調局、マカオ財政局各 HP

表 4 マカオにおけるゲーミング粗収益とゲーミング税収の推移

年	ゲーミング粗収益 (100 万パタカ)	ゲーミング税 (100 万パタカ)	参考円換算(億円)	
			粗収益	ゲーミング税
2001	19,541	6,116	2,654	831
2002	23,496	7,555	3,191	1,026
2003	30,315	10,427	4,118	1,416
2004	43,511	15,098	5,910	2,051
2005	47,134	17,194	6,402	2,335
2006	57,521	20,629	7,813	2,802
2007	83,847		11,389	

注意: 1HK\$=1.03MOP、1HK\$=¥13.99、1MOP(パタカ)≒¥13.583(2008年1月22日現在)

(イ)カジノの社会・経済に及ぼす影響

ア)ギャンブル依存症について

- ① 2002 年からカジノの社会的な問題について研究しているが、マカオではカジノ収入のわずか4%が社会コストとして充てられており、それほど高くはない。カジノに興じているのが、マカオ市民ではなく98%が中国本国等からの観光客のためである。
- ② 2003 年以降、マカオでもギャンブル依存症が顕在化しているため、米国精神医学協会が提案している DSM-IVに基づいて調査を行ったが、これによるとマカオ市民のギャンブル依存症の発生率は1.78%となっている。
- ③ 他国・他地域のギャンブル依存症の発生率は、香港で1.8%、全米で0.9%、ラスベガスで3%と、世界的には1~2%が標準的な水準であり、現況においてマカオでは深刻な社会問題とはなっていない。

イ)人的資源(Human resources)の確保等について

- ① 現在のマカオ人口53万人のうち9万人は周辺アジア諸国などから流入している。
- ② マカオでは、カジノ産業の急成長により人材不足に陥っている。例えば、カジノテーブル1卓には、24時間3シフト体制で7~8人。5つ星クラスのホテルでは清掃人まで含めると1室1人は必要である。
- ③ 狭い面積しかないマカオへの人口流入が続いており、元々のマカオ市民と外地人との間で摩擦が起こっている。

ウ)経済問題について

- ① マカオ外からの投機資金(Hot money)の流入により、マカオ経済はもの凄い勢いで成長している。特に、不動産価格が著しく上昇し、マカオ市民の一部(若年層等の低所得者)では、住宅の購買能力がなくなっている。
- ② 所得格差(Income Disparity)



の拡大により、社会的な調和が保てなくなっている(No harmony)。このような弊害が発生していることから、マカオ市民の不満は大きくなっている。

表 5 最近の雇用状況と 1 人当たり GDP の推移(単位:千人)

年	労働人口	就業人口	失業人口	失業率	1人当たりGDP(US\$)
1999	209.4	196.1	13.2	6.3%	13,844
2000	209.5	195.3	14.2	6.8%	14,171
2001	219.0	205.0	14.0	6.4%	14,253
2002	218.6	204.9	13.7	6.3%	15,567
2003	218.5	205.4	13.1	6.0%	17,805
2004	230.3	219.1	11.2	4.9%	22,634
2005	247.7	237.5	10.3	4.1%	24,369
2006	275.5	265.1	10.4	3.8%	28,853
2007	317.5	307.7	9.8	3.1%	

注意: 2007 年は第 3 四半期末実績

エ) 近隣地域との関係

- ① 水、電力、生鮮食料品などについては、中央政府が広東省や他省に対しマカオへの優遇政策（優先供給）を採っており、近隣地域との関係が悪化している。
- ② マカオ～中国・珠海間の入出国審査は 1 時間もかかっており、明らかに能力を超えている（Over capacity）。

オ) 責任ある賭博 (Responsible gaming) という考え方について

- ① マカオでは、社会への影響を最小化するため、「責任ある賭博」という考え方を導入しており、「賭博者への教育」「未成年者の保護」「自己排除プログラム」等を実施している。

カ) 組織悪 (Organized crime) について

- ① 歴史的にもマカオにおいては、カジノと組織悪との関わりは確かにある。マカオ経済が成長している現状においては、マフィアも金を稼ぐことに夢中になっている状況であり、抗争などは発生していない。
- ② 成長が鈍化すれば、組織悪に関する懸念が表面化する可能性はあるが、マカオ政庁ではこれを見越した対策を既に講じている最中である。

2) マカオにおけるカジノ人材の育成について

聞取対象者: 澳門旅遊博彩技術培訓中心 禮賓專員

- ① 本校は 2003 年に開校し、これまでに 12,000 人が入学者し、8,000 人が卒業している（就職率は 80～90%）。
- ② 月～金の週 5 日、4 ヶ月間のコース（3 クール）を設けており、現在はテスト休みの時期である。
- ③ 朝昼晩に分けて授業を行っており、生徒はアルバイトなどの関係で自分の来られる時間帯の授業を選択している。基本的な授業は午前であり、受講できない生徒のため、インターネットによる講義提供を検討している。
- ④ マカオ市民のための施設であり、地元の ID を所持していれば学費は無料である。基本的にマカオ人以外は、受け入れていない。経営の経験がある等の技術のある外国人は受け入れることもあるが、ごく少数である。これまでにオーストラリア、ラスベガス、シンガポール、マレーシア等の方を受け入れている。
- ⑤ ディーラーを目指す新生は、「バカラ」「ブラックジャック」の基本的なカード・チップの配り方、及びビジネスマナー、英語、中国語を学ぶ。
- ⑥ 入学可能な年齢は 18～55 歳である。しかし、19 歳からカジノで働くのは早いとの議論があり、現在見直しが進められている。法案が通れば 21 歳からになるであろう。若年者のギャンブル依存症対策と言うことではなく、21 歳までにカジノとは別の社会的経験を積む必要があるとの認識である。
- ⑦ 本校でも依存症対策のセミナー等、簡単なものは実施しているが、生徒が依存症になっているとはあまり聞いたことがない。依存症に関するカウンセリングやセミナーは、別機関で実施している。
- ⑧ 既にディーラーとして経験を積んでいる方のスキルアップのために、「バカラ」「ブラックジャック」以外のコースもあるが、中国式のテーブルゲームはあまり人気がない。
- ⑨ オプションコースとして、不正等の監視スキルを養うモニター監視室コースや換金所コースもある。
- ⑩ スロットマシンはオプションコースで、機械の構造を学ぶコース、メンテナンスコースが用意されている。
- ⑪ ホテルフロント、ハウスキーパー、サービス等のコースもあるが、給料が低いため人気がない。
- ⑫ 調理人（パン、飲茶、西洋、中華）養成コース、バーテンダー養成コース等は人気が高い。



マカオツーリズム・カジノキャリアセンター入口。



校舎内の掲示板:センターからの案内の他、各カジノからの求人情報が掲載されている。求人情報を調べる生徒の様子(左)。



テーブルゲーム台が並ぶ教室。ここでブラックジャック等のディーラーとしての技術を学ぶ。



室内には、各種スロット機器類も設置されている。カジノ内でよく見られる形態がある。



モニター監視室:モニターに映し出されたディーラー、客を監視する技術を習得する。



ハウスキーピング技術を習得する教室:ホテル室内と同様の部屋が設置されている。



調理実習室:パン、飲茶、中華、西洋料理で4教室用意されている。上記は飲茶、右は中華



2008 3 5